テキスト抜け、SSのトリミングや貼付位置の甘さがありますがご容赦願います。

# FF14　備忘ログ(PATCH2.0)　ジョブクラス編

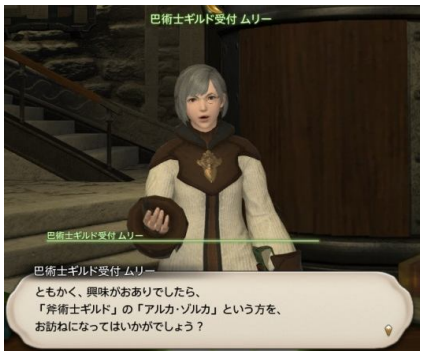
## 学者クエスト

©2010－2014 SQUARE ENIX CO.,LTD.All Rights Reserved. FINAL FANTASY XIV

# 学問ノススメ

巴術士ギルド受付

ムリー ： ふむ……貴方なら適任かもしれませんね。実は最近「実力ある巴術士を紹介しろ」と、妙な男性から迫られておりまして……。
斧術士ギルドに所属している方らしいのですがね。なんでも、ある「学術調査」に協力してくれる巴術士を探しているのだそうです。
巴術を探求する者にとっても有益な調査だと仰っていましたが、はたして本当かどうか……。
なにせ斧術士には、粗野な輩も多いですからね。
ともかく、興味がおありでしたら、「斧術士ギルド」の「アルカ・ゾルカ」という方を、お訪ねになってはいかがでしょう？




アルカ・ゾルカ ： もしかして「巴術士ギルド」から派遣されてきた人？　いやはや、実にいいタイミングで来てくれたね！
さっそく、話を聞いておくれよ。
僕は、斧術士のアルカ・ゾルカ。おっと、そこらの筋肉ダルマとは比べないでくれよ。
新時代を生きる頭脳派斧術士とは、僕のことなんだから！
僕はね、斧術をさらなる高みへ導くために、伝説の「ニーム海兵団」について調べているんだ。
今よりさかのぼること1500年以上前……　第六星暦時代のバイルブランド島には、「ニーム」という名の海洋都市が存在していた。
当時は、魔法文明の隆盛期でね。魔法を濫用した戦乱……「魔大戦」が、エオルゼア全土で巻き起こっていたそうだよ。
少数の魔道士しか保有できなかったニームが、そんな中、独立を維持できていたのは、
海兵団の存在があったからだ、と言われているんだ。
斧を持った多数の海兵と、少数の魔道士で構成された、伝説の最強軍団「ニーム海兵団」……。
その強さの秘密を知ることができたら、斧術士である僕だけでなく、魔法使いであるキミにも益があると思わないかい？
……でも、ちょっとした問題があってね。大枚はたいて冒険者から購入した、ニーム時代の遺物が、
輸送中に盗賊に奪われてしまったそうなんだ。
犯人は、東ラノシアの「レインキャッチャー樹林」にある船着場近くで、通行人を襲っているらしい。
まずは、盗賊退治に付き合ってくれ！

アルカ・ゾルカ ： 協力に感謝するよ。……ここで盗賊たちを、待ち伏せるんだ。奴らが現れたら、一気に仕掛けるぞ！

理詰のアルカ・ゾルカ ： 奴らが強奪犯だ！　逃がすものか！
理詰のアルカ・ゾルカ ： どうやら片付いたようだね。やつらに盗まれた荷物を、探してみよう。

アルカ・ゾルカ ： これだ！　伝説の海兵団に関する石版だ！
な、なんだ、このヘンチクリンな奴は！？
ハッ……！　もしかして、石版に何か記述があるかも……。
あった！　海兵団を導いた魔道士……軍学を修めし「学者」！　そして、その使い魔「フェアリー」！
陽光と癒しの力を司る「フェアリー・エオス」！
月光と励ましの力を司る「フェアリー・セレネ」！

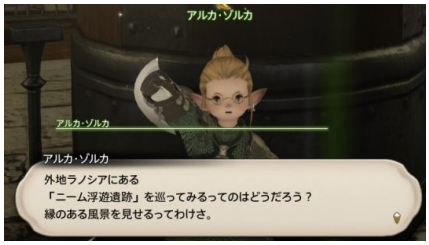
？？？？ ： ◇◇◇……。

アルカ・ゾルカ ： すごいぞ！　キミは古の「学者」の力を……　使い魔「フェアリー」を目覚めさせたんだ！！
まったくもって、予想外の展開だよ！　古の軍学魔法を甦らせてしまうだなんてね！
ともかく、落ち着いて石版を調べるためにも、一度、リムサ・ロミンサに戻ろうじゃないか。
それじゃまた、「斧術士ギルド」で会おう！

アルカ・ゾルカ ： やあ、お戻りだね！ ちょうど今、回収した石版を読んでいたところだよ。
……石版の記述によれば、ニームの「学者」たちは、キミが拾った輝く結晶「ソウルクリスタル」に、
軍学魔法の知識を蓄積していたようだね。
つまり、ソウルクリスタルは「学者の証」であり、フェアリー召喚の鍵になるってことさ。
その結晶は、どうやらキミが持っておくべき物のようだ。盗賊退治に協力してくれたお礼、ってわけじゃないけど、
キミに譲るとするよ。
僕はこれから、石版をさらに読み進めてみる。調査の進展には少しかかりそうだから、
キミはその間に、フェアリーの扱いを練習していてくれ。

# 失われた記憶を求めて

アルカ・ゾルカ ： やあやあ、◇◇◇君じゃないか！「ニーム海兵団」の研究は、着実に進んでいるよ。
……石版の劣化が激しくて、解読は大変だけどね。
もちろん、キミのことも忘れちゃいないさ。「学者」の軍学魔法についても、ちゃーんと調べてるよ。
……ニームの軍勢は、斧を持つ海兵を主力としていた。そして、貴重だった魔道士の力は、兵士たちの力を
最大限に引きだすために、使われていたらしいんだ。
最前線で兵の指揮を執りつつ、彼らとともに戦い、魔法でその力を引き出して、負傷者があればそれを癒す。
戦う軍師……それが軍学を極めた「学者」という存在さ。
だけど、気になる点もいくつかあってね……。石版によれば、軍学魔法はもっと多彩なものだったらしい。
すべての軍学魔法を使えないのは、1500年もの長きにわたって封じられていたフェアリーが、
完全に目覚めていないせいだと思うんだ。
……フェアリーに、記憶を刺激するような体験をさせれば、目覚めを促すことができるんじゃないかな。
外地ラノシアにある「ニーム浮遊遺跡」を巡ってみるってのはどうだろう？
縁のある風景を見せるってわけさ。
ただし、あの辺りはコボルド族の勢力圏にも近い。彼らと遭遇すると厄介だから、くれぐれも注意してくれよ。



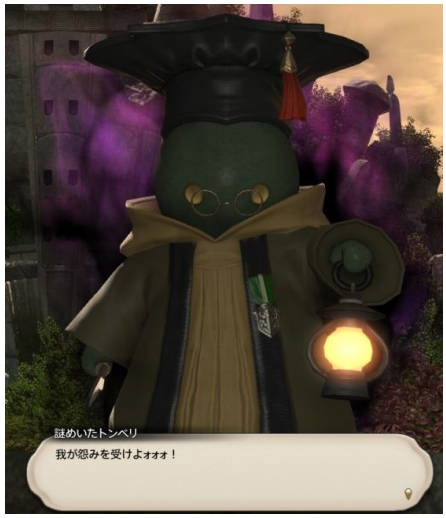

アルカ・ゾルカ ： おかえり、◇◇◇君。その様子だと、僕の提案はうまくいったようだね。
フェアリーの目覚めによって、「ソウルクリスタル」に秘められていた古の軍学魔法が、呼び覚まされるはずだよ。
さあ、僕も負けていられないね。石版に記されていた「海兵の戦技」を体得するため、猛特訓をしてみるつもりさ。
失われた技術を、どっちが次に復活させられるか、競争しようじゃないか！
さあ、お互い修行に励もうぜ！

# 怨念の権化

アルカ・ゾルカ ： やあやあ、◇◇◇君！　いつもながら、キミはいいところに現れてくれるね。
実は僕、石版にあった「海兵の戦技」を体得できたんだ！
伝説の「ニーム海兵団」では、海兵と学者が協力していたって話は、もうしたよね？
海兵の戦技を復活させたい僕としては、ぜひとも、現代に甦った学者であるキミと共闘して、体得した技を試してみたいんだよ。
ちょうどいい話があってね。ニーム時代の遺跡が数多く残るブロンズレイクに、「トンベリ」が現われたらしい。
「トンベリ」っていうのは、ニーム時代の神殿遺跡……　「ワンダラーパレス」に棲みついている不快な怪物さ。
普段は遺跡から出てこないんだが、最近1匹のトンベリが、ブロンズレイクを徘徊してるらしい。
その討伐依頼が、斧術士ギルドに回ってきてるのさ。
ニームに由来する場所で怪物退治……。フェアリーの記憶を刺激するのにも、うってつけだろう？
トンベリが目撃されたのは、高地ラノシアの「ブロンズレイク」中央部だ。現地に祭壇があるから、その前で待ち合わせよう！

アルカ・ゾルカ ： ◇◇◇君、待たせてしまったみたいだね。
「トンベリ」が目撃されたのは、このあたりだ。まだ周囲に潜んでいるかもしれないから、慎重に行こう。
いたぞ！　あいつが噂の怪物だ！

謎めいたトンベリ ： オオオォォォォ……！　我が輝き……失われた輝き……　ついに見つけたぞォォォ……！
我が怨みを受けよォォォ！




アルカ・ゾルカ ： く、来るぞッ！

先駆のアルカ・ゾルカ ： 僕が前に出るから、支援を頼むッ！
先駆のアルカ・ゾルカ ： なんだコイツら？　あいつが呼び出したとでもいうのか！？
先駆のアルカ・ゾルカ ： う、うわあああああっ！？

アルカ・ゾルカ ： これでトドメだァ！
危ないじゃないかッ！　邪魔だ、そこをどけッ！

謎めいたトンベリ ： オオォォォ……。

アルカ・ゾルカ ： なんだってんだよ！
キミのフェアリーは、躾けがなってないよ！　おかげで、トンベリを逃がしてしまったじゃないか！
……まぁ、軍学魔法とフェアリーについては、まだまだ未知数の部分が多いから、仕方がないけどさ。
とにかく、今回の討伐は失敗だよ。トンベリは完全に見失ってしまったし……
今日のところは「斧術士ギルド」に引きあげるとしようか。

アルカ・ゾルカ ： やあ、◇◇◇君。さっきは怒鳴ったりして悪かったね。僕も少し、興奮しすぎていたようだ……。
トンベリ討伐は失敗してしまったけど、僕の「海兵の戦技」と、キミの軍学魔法の連携が、
実戦でも有効だってことを証明することはできた。
見たところ、キミのフェアリーも、記憶を刺激されているようだし、収穫はあったわけだ。
僕は、さらなる調査を続けるとするよ。また進展があったときは、協力してくれよな。
……それと、フェアリーの躾けを忘れないでくれよ。

# 匠たちへの頼み

アルカ・ゾルカ ： やあやあ、◇◇◇君！　相棒のフェアリーともども、腕を上げたようだね！　こっちの調査にも進展があったよ。
第六星暦当時の「学者」が活躍する様子を描いたレリーフと、その装束にまつわる記述を発見したんだ。
もし、学者の装束を再現できたとしたら……　フェアリーの記憶も、おおいに刺激されるんじゃないかな？
とはいえ、1500年以上前の装束を、少ない資料を頼りに作るのは、並の職人じゃムリだろう。
だから、専門家に協力を要請してみたんだ。
まずは、僕がまとめた「学者装束概論」を渡しておくよ。これをウルダハにある裁縫師ギルドのマスター、
「レドレント・ローズ」さんに渡して、製作を依頼してくれ。
ただし、その前にやるべきことがある。材料となる「霊妖花の若葉」を手に入れる必要があるのさ。
「霊妖花の若葉」は、今やモードゥナの「迷霧湿原」でしか見られない稀少な妖花の若葉だ。
密集した樹木の間を、よく探してくれ。
若葉を手に入れたら「学者装束概論」ともども、裁縫師ギルドの「レドレント・ローズ」さんに渡すんだ。
「学者の装束」の再現、楽しみに待っているよ！

レドレント・ローズ ： あなたが、アルカ・ゾルカちゃんが言ってた「学者」さん？　ヒトは見かけによらないのねぇ……。
この「学者装束概論」に描かれてる写し絵を参考に、装束を再現すればいいのね？
なるほど……仕立てるのは難しそうだけど、こんな感じの復古主義的オシャレもいいわね。
古代のロマンをビンビン感じるわ！
この「霊妖花の若葉」を染料に、シックな濃紺に染めるっていうのも素敵よね！　さっそく作業に取りかからせてもらうわ！
はぁ、はぁ、はぁ……　で、できたわよ！
私ったら、ガラにもなくハッスルしちゃったわ！　そのぶんだけ、満足のいくデキに仕上がってるわよ。
ただ、注意してほしいことがあるの。完成したのは脚衣だけ……あとは未完成よ。
仕上げは、それぞれの専門家に任せたいの。
制帽は、彫金師ギルドの「セレンディピティー」ちゃん。手袋は、革細工師ギルドの「ゲヴァ」ちゃん。
ブーツは、同じく革細工師ギルドの「ベリ」ちゃんよ。
それぞれの専門家に、私が用意した「未完の学者装束」を渡せば仕上げてくれるわ。
全部完成したら、「アルカ・ゾルカ」ちゃんに着て見せてあげなさいよ。
あの子も装束の完成を楽しみにしてるはずだからね。

セレンディピティー ： はい、どうもこんにちは！　あなたがレドレント・ローズさんの言っていた「学者」さんですね？
話は伺っていますよ。さっそくですが、仕上げ作業をやってみますね。
できました！　レドレント・ローズさんが仕立てた帽子に、ミスリル細工の留め金と飾りをちりばめてみました。
深い濃紺に、ミスリルの白い輝き！　うん、とっても素敵だと思いますっ！

ゲヴァ ： ふぅん、レドレント・ローズが言っていた自称「学者」って、あんたなのね。
ま、いいわ。細かい話は抜きにして、仕上げ作業に入るから。
こんなものかしら？　リムサ・ロミンサから取り寄せておいたバッファロー革を縫いあわせたグローブよ。
魔道書をめくりやすいように、指先が出る形に仕上げておいたわ……大切になさい。

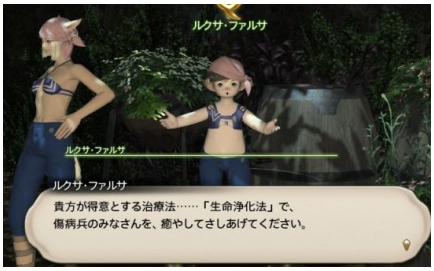
ベリ ： 例の「学者の装束」に関する依頼だね？　靴職人である、この私の腕が必要というのなら、喜んで手を貸させてもらおう。
こんな機会は、なかなかないからね。気合いを入れて、仕事をするとしようか！
ほら、お望みの品の完成だ。写し絵のデザインを参考に、キミが届けてくれた部品に、
バッファロー革とボア革を縫いあわせて仕上げてみた。
多くの命をいただいて作った品なんだ。くれぐれも、愛情をもって使ってくれよ。

アルカ・ゾルカ ： こ、これが……　「ニーム海兵団」の学者が着ていた、古の制式装束ッ！
素晴らしい出来だよ！　石版に刻まれたレリーフから、こんなにすばらしい装束が再現されるなんて！
自分で提案しておいてなんだけど、本当に驚きだ！
あはは、キミの相棒も、どうやらお気に召したようだぞ！　今回の装束再現は大成功だなッ！

# 軍学式の治療法

アルカ・ゾルカ ： そうそう、◇◇◇君！　キミが学者装束のために奔走している間も、調査を進めていたところ、新たに解ったことがあるんだ。
……「ニーム」が繁栄していた第六星暦末期。「魔大戦」という大きな戦乱があったものの、
その合間には、多少なりとも平穏な時期があったらしい。
そういう平時の間、学者たちはその魔法を使って、癒やし手として活躍していたそうなんだ。
特に、ニームで奇病が大流行した時には、献身的に人々の治療にあたったそうだよ。
当然、キミのフェアリーも治療に参加していたはずさ。
もしかすると、病人の治療に手を貸すことで、フェアリーの記憶を刺激できるかもしれない……。
高地ラノシアのキャンプ・ブロンズレイクには、「ウォームワイン・サナトリウム」っていう療養所がある。
所長の「ルクサ・ファルサ」に会って、病人の治療を手伝ってみたらどうかな？
フェアリーの目覚めを促せるかもしれないよ。

ルクサ・ファルサ ： ようこそ、ウォームワイン・サナトリウムへ。長期療養のご希望でしたら……っと、病人の治療を手伝いたいですって？
あぁ、アルカ・ゾルカさんから話は伺ってますよ。今のご時世、無償で治療をしてくださる方がいるとは……
私、感激でございます。
この温泉地には現在、治療を必要としている傷病兵が5名ほどいらっしゃいます。
貴方が得意とする治療法……「生命浄化法」で、傷病兵のみなさんを、癒やしてさしあげてください。



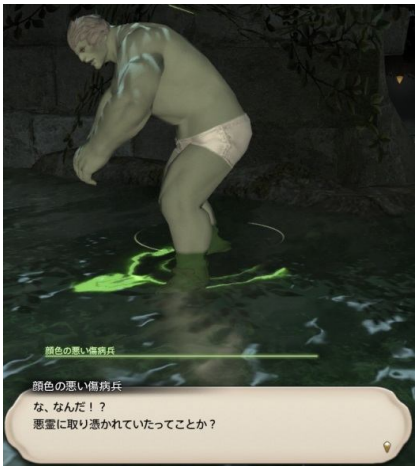

辛そうな傷病兵 ： なんだか、体調がすぐれなくて……　あなたが治療してくださるの？
まぁ、なんだか身体が軽くなったようだわ。本当にありがとう！

酔った傷病兵 ： うぃっく……　治療のために飲むスパイスワインは、最高だぁ～！
うぃっく……どうしてくれるんだぁ～！　体調が良くなっちまったら……うぃっく！
スパイスワインが、飲めなくなるじゃねぇかぁ～！

顔色の悪い傷病兵 ： 傷はもう治ったはずなのに、誰かが伸しかかっているように肩が重いんだ……。
な、なんだ！？　悪霊に取り憑かれていたってことか？

陰気な傷病兵 ： カルテノーの戦いから5年……　いっこうに傷が完治する様子もねぇ……。
あ、あんなに疼いていた傷が嘘のように……　アンタ、いったい何者だ！？

眠そうな傷病兵 ： ……悪夢にうなされて、夜も眠れないの。何かに取り憑かれているのかしら……。
ほ、本当に取り憑かれていたなんて！



ルクサ・ファルサ ： いやぁ、実に素晴らしい働きぶり！　私、感服いたしました！
傷や病が癒えれば、みなさん、前線に復帰できるでしょう。貴方を紹介してくださった斧術士ギルドの
「アルカ・ゾルカ」さんにも、よろしくお伝えください！

アルカ・ゾルカ ： やあやあ、◇◇◇君！　その様子だと、キャンプ・ブロンズレイクでの治療活動は順調だったみたいじゃないか！
うんうん。どうやら、キミの相棒であるフェアリーも、癒やし手としての日々を思い出したようだね。
僕だって負けてはいないよ。キミが治療に行っている間に、さらに海兵の戦技を体得するため、猛特訓していたんだ。
もう少し時間が必要そうだけど、必ずモノにしてみせるさ！　キミも、欠かさず修行しておけよな！

# 次代の学者

アルカ・ゾルカ ： やあやあ、◇◇◇君！　とんでもなく、いいところに来てくれたね！　出たんだ、出たんだよ！
何が出たって、前に仕留めそこなった「トンベリ」さ！　ブロンズレイクで、荷運び人が襲われたらしい！
ちょうど、斧術士ギルドの仲間にも応援を頼んで、トンベリ退治に出発するところだったんだ。
前回は、あと一歩のところでフェアリーに邪魔されてしまったけど……
もう、そんな事はないよな？　キミも、フェアリーの扱いには慣れてきたわけだし。
ともかく、一緒にトンベリ退治に行くぞ！　場所は「高地ラノシア」の「ブロンズレイク」中央部！　例の祭壇前で合流だ！

アルカ・ゾルカ ： 遅いぞ、◇◇◇君！　もう少しで、僕たちだけで仕掛けるところだったよ！
この上の祭壇に、また奴が現われているんだ！
みんな、準備はいいな！？
化物め、覚悟しろい！　アルカ・ゾルカ様と新生「海兵団」が、今度こそ、お前をとっちめてやるッ！

謎めいたトンベリ ： オオォォォォ……　我が輝きを……奪った者たちよ……。怨みの地で、決着をつけようぞ……。

アルカ・ゾルカ ： しまった！　奴め、ワンダラーパレスに逃げこむつもりだ！
奴を追うぞ！　こうなったら、殴りこみだッ！

海兵のアルカ・ゾルカ ： 来てくれ、◇◇◇君！　奥に逃げられる前に、決着をつけるぞッ！
アルカ・ゾルカ ： また邪魔する気か！？
海兵のアルカ・ゾルカ ： ◇◇◇君、まさか、こいつを助けるつもりかい！？

謎めいたトンベリ ： オオォォォォォォ……　狂おしいほどの怨みが、晴れてゆく……。
お、お前はリリィベル！　なぜ、私のフェアリーをお主が……？
なるほど。私がワンダラーパレスに封じられてから、どうやら、途方もない歳月が過ぎたらしいな。
スリト・カリト ： 私の名は、スリト・カリト。かつて海洋都市「ニーム」が誇った最強軍団、
「海兵団」を率いる軍学者のひとりだった……。
……ある年、1隻の交易船が故郷に奇病を持ちこんだ。その病にかかると、耳や鼻が削げ、四肢が縮まり、私のような姿となってしまう。
次々に人々が奇病にかかる中、私は癒やし手として、治療に奔走した。
だが……やがて、私も奇病に感染してしまった。そして醜い姿となった私を、かつての戦友たちは魔物だ、悪鬼だと罵ったのだ！

アルカ・ゾルカ ： そ、そんな……　じゃあ、アンタはもともと人だったっていうのか？

スリト・カリト ： さよう……。私と同様に、多くの者が魔物の如き醜い姿となった。
そして……迫害され、すべてを奪われた我々は、怨みに呑まれ、心までも魔物の如くになってしまったのだ。
この確執は、ついには患者の隔離施設であったワンダラーパレスごと湖に沈め、封印魔法で封じるという
悪夢のような結末に至った……。
だが、お主とフェアリー「リリィベル」のカが、私の怨みに固まった心を癒やしてくれた……。
ありがとう……　こんな晴れやかな気持ちは久しぶりだ……。

熟練の斧術士 ： アンタの「軍学魔法」とやら、やるじゃねぇか。アルカ・ゾルカとのコンビネーション、見事だったぜ。
それに引き替え、俺は……ああ、まったく情けねぇ！

気鋭の斧術士 ： アルカ・ゾルカのこと、頭でっかち野郎だって思ってたけど……案外やるもんだね。
アタイも「海兵の戦技」とやらを、習ってみようかな。
今回はアタイたち、あんまり役に立てなかったからね。正直言って、あんたとアルカ・ゾルカ……
ふたりの目覚ましい活躍に、嫉妬さえ覚えたくらいだよ。

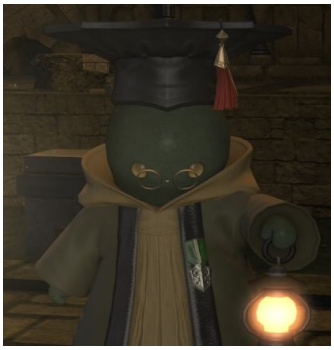
アルカ・ゾルカ ： うぅ……スリト・カリトさんが、ニームの学者だったなんて……つらかったろうな……。
……でも、怨みを忘れられたし、キミのフェアリーも、記憶を取り戻したわけだ。万事めでたし、だよな？
それにしても、キミはすごいな……。学者であるキミに背中を預けて戦うことで、僕も強くなれるって実感できたよ。
よぉし、さらなる技の体得に向けて、ギルドに帰って、調査と特訓を続けるぞ！　キミはスリト・カリトさんに、挨拶していけよな！

スリト・カリト ： ありがとう。お主とリリィベルの力は、私の心を癒やしてくれた。霞のかかっていた思考も、今では晴れやかだ。
時を超え、軍学魔法を修め、リリィベルを目覚めさせてくれたお主に頼みがある。
奇病によって姿が変わってしまった私は、体内エーテルが変容し、もはやリリィベルを召喚できない。
リリィベルを……正式にお主に託させてくれ。
そして学者を志すお主に、これを贈りたい……。「ニーム海兵団」に伝わる軍学の制服と、至高の軍学魔法「生命活性法」を！
さて……私はもう行くことにするよ。いまだ怨みに呑まれたままの仲間を救うために……。
なに、私とて学者だ。必ず彼らを癒やしてみせるさ。
それではな。1500年後に現われた私たちの後継者よ……。さらばだ！

# 登場人物

アルカ・ゾルカ：斧術士

スリト・カリト：1500年前の「ニーム」の学者



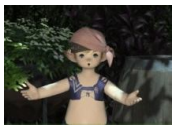
レドレント・ローズ：裁縫師ギルドマスター

セレンディピティー：彫金師ギルドマスター

ゲヴァ：革細工師ギルドマスター

ベリ：靴職人

ルクサ・ファルサ：療養所長



ムリー：巴術士ギルド受付

熟練の斧術士

気鋭の斧術士

傷病兵の方々